



# 日本とアジアの群島を結ぶ文様研究

## —先端メディアによるデザイナーカイヴの構築—

### 1. 研究の目的

- (1) 日本とアジアの群島で特徴的な文様を収集しアート&デザイン研究のための芸術資源とする。
  - ① 日本の本土から南西諸島、台湾、フィリピン諸島、インドネシア諸島に至る群島に混在する文様の収集を行う。
  - ② 群島から収集した文様に関する情報を整理した上で比較研究を行い、アジアの芸術文化の諸相を文様から考察する。
- (2) 先端的なデザインやアートを含む芸術資源に関する研究拠点を構築する。
  - ① プログラミング技術の進化やAI応用を踏まえたインタラクティブな創造支援ツールを構築し、デザイナーやアーティストのアイデアやインスピレーションの源泉となるアーカイブを制作する。先端的なデザインやアートの展開のために新たな文様を生成する独創的なリソース・システムの構築、公開、教材開発を目指す。
  - ② 文様資源を単なる形としての図案やデザインでなく、人と文化と社会の諸相を具現化したメディアとして捉え、様々な可能性を秘めた芸術資源として美術教育に活用する。

### 2. 研究の計画

#### (1)文様収集と調査

- ① 多摩美術大学アートアーカイブセンター（東京都）が所蔵する山名文夫資料の閲覧調査を行う。
- ② 資生堂企業資料館（静岡県）が所蔵する山名文夫資料及び資生堂唐草に関する資料を閲覧する。
- ③ 研究メンバーで、資生堂デザイナーであった山形季央氏に資生堂唐草の系譜についてインタビューし記録映像を撮影する。
- ④ 旧文様研究所所員であった高橋士郎（前学長）の研究成果を再検証するとともに新たな資料を追加してイスラームの文様建築に関する映像作品を制作する。
- ⑤ 平取町立二風谷アイヌ文化博物館（北海道）、萱野茂二風谷アイヌ資料館（北海道）、ウポポイ（北海道）でアイヌの文様収集及び、アイヌ文化継承者の川上裕子氏への聞き取り調査を行う。

#### (2)研究拠点の構築

- ① これまでの研究成果であるインドネシアにおける文様調査の結果を論文にまとめる。
- ② インドネシアの植物文様を活用した自動生成できる文様デザインアプリケーションの開発を行う。
- ③ 文様研究の手法を大学（学部・大学院）で開講する授業で実験的に活用し、美術教育活動を行う。
- ④ 本研究を含む文様アーカイブ研究の現状を公開シンポジウムなどで報告し意見交換を行う。

### 3. 研究の成果

#### (1)文様収集と調査

- ① 旧文様研究所所員であった高橋士郎（前学長）の研究成果を再検証するとともに新たな資料を追加してイスラームの文様建築に関する映像作品を制作した。
- ② 平取町立二風谷アイヌ文化博物館（北海道）、萱野茂二風谷アイヌ資料館（北海道）、ウポポイ（北海道）でアイヌの文様収集及び、アイヌ文化継承者の川上裕子氏への聞き取り調査を行った。

#### (2)研究拠点の構築

- ① これまでの研究成果であるインドネシアにおける文様調査の結果「熱帯文様論—インドネシア諸島の文様を中心に」を多摩美術大学が発行する研究紀要に投稿した。

- ② インドネシアの植物文様を活用した自動生成できる文様デザインアプリケーションの開発を行い、シンポジウムで発表した。合わせて文様生成アプリ 2021 年度版《Monyo Generator App KARAKUSA 2021 ver.0.9》を公式ホームページで公開した。
- ③ 文様研究の手法を研究代表者が大学（学部・大学院）で開講する授業（染織史2、染色文化特殊研究）で実験的に活用し、美術教育活動を行った。
- ④ 本研究に関連する文様アーカイヴについては、本学で2020年12月5日にオンライン開催された第3回アートアーカイヴシンポジウム「特集 メディウムとしてのアートアーカイヴ」の第2部アートアーカイヴと遠隔教育で、研究代表者の深津が「文様アーカイヴとアート&デザイン教育」として発表した（主催：多摩美術大学アートアーカイヴセンター 協力：多摩美術大学メディアネットワーク推進委員会）。また本シンポジウムの内容は、アートアーカイヴィングの研究誌「軌跡」第3号（2021年11月発行）にも寄稿し、合わせて同誌に代表者が「文様の創造力—多摩美術大学における文様研究の系譜」として寄稿した。

#### 4. 研究の反省・考察

- (1) 研究成果は論文だけでなく映像作品として提示することができた。繰越年度である本年度に、昨年度の成果である3つの映像作品のうち、資生堂企業資料館との協力により制作した2作品については著作権の関係で学術/教育資料としての活用はできるものの、全てを一般公開できなかった。
- (2) 本研究でのこれまでの成果は、大学研究紀要やシンポジウム、研究誌で発表することができ、外部研究者と今後の文様アプリケーションについて意見交換をすることもできた。
- (3) 北海道でアイヌ文化の文様収集に着手し、アイヌ文化継承者である川上氏からも様々な話をうかがうことができ情報収集することができたが、得られた情報の裏付けや歴史的な背景を十分に検討する必要があるとともに、公開についても慎重に検討すべきことがわかった。

#### 5. 研究発表

##### (1)学会誌等

- ① 深津裕子・佐々木成明・伊藤俊治「熱帯織物論—インドネシア諸島の文様を中心に」多摩美術大学研究紀要第35号 149-161 (2021)
- ② 深津裕子「特集 メディウムとしてのアートアーカイヴ」『軌跡』第3号 59-72 (2021)
- ③ 深津裕子「寄稿 文様の創造力—多摩美術大学における文様研究の系譜」『軌跡』第3号 102-103 (2021)

##### (2)口頭発表

- ① 深津裕子「文様アーカイヴとアート&デザイン教育」第3回アートアンドテキスタイルシンポジウム「特集 メディウムとしてのアートアーカイヴ」第2部アートアーカイヴと遠隔教育 主催：多摩美術大学アートアーカイヴセンター 協力：多摩美術大学メディアネットワーク推進委員会 2020年12月5日 オンライン開催

##### (3)出版物

なし

##### (4)映像作品

- ① 文様生成アプリ2021年度版《Monyo Generator App KARAKUSA 2021 ver.0.9》  
佐々木成明監修  
<https://www.youtube.com/watch?v=Wn90Hwog0JY>